

Webサイトの運営目的は何か 「伝わる情報」を念頭に入れよ

本連載ではこれまで中央府省庁の主要サイトを中心に、「ユーザビリティ&アクセシビリティ」の診断を行ってきた。年頭発売の今号は、筆者である濱田・石田両氏に、府省庁サイトの総評と、多くに共通した問題点を洗い出して、「傾向と対策」をまとめてもらった。一般企業のサイトに比べて、良くも悪くも「官僚的」なWebサイトの実像が露呈した。

人目に触れず、不徹底な アクセシビリティガイドライン

石田 中央省庁サイトの評価もほぼ一巡しました。今回はいつも感じている問題点についておさらいしてみたいと思います。

濱田 たしか省庁系のWebは、アクセシビリティに関するガイドラインが出て、ALT属性をつけるようになった。けれども調べてみたら、まだいっぱい抜けている。徹底されていないようだし、ガイドライン自体もきちんと理解している人があまりいないのだろうね。

石田 そうだと思います。

濱田 総務省サイトにガイドラインは出ているけれど、これを読んで、どう作ればいいのかを把握しているところは少ないようだ。

石田 どこに載っています？

濱田 http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/policyreports/japanese/group/tsusin/90531x51.html。これ一応指針なんだけど、「参考」になっている。それに、どこに掲載されているのか、これではわかりにくいんじゃない？

難解で長すぎる文書名や 印刷物画像の貼りつけはやめて

石田 省庁のサイトでは文書の一つひとつのタイトルが長すぎます。たとえば、この経済産業省(図1)。これだと音声でもわ

からないし、字ヅラを見てもわからない。ほんの一部だけ文字が違うタイトルがずらりと並んでいたりする。

濱田 もともと委員会の名前が長すぎて覚えられないよ。もう少し何とかしないと。漢字ばかりだし。

石田 もともと難しい文書名をWebだけやさしく表記するのは無理かもしれないけれど、何かひと工夫ほしいところです。それと目立つのが、パンフレット貼りつけ形。この内閣府の案内ページもそうです(図2)。Web制作会社に印刷物を渡して、「これを基に作ってください」というと、文章をテキストにしてWeb化する会社もありますが、多くの場合、印刷物の画像をそのまま貼りつけてしまう。ユーザはこんな場合でもテキストを起こしていますが。

濱田 そのまま画像で貼ったりすることは絶対にしない。ただ、もしかすると納期や予算の問題があるのかもしれない。

石田 最近はOCR技術も使えるので、印刷物のテキスト化もさほど労力がかからないと思いますが……。

デザインへの配慮が足りず 統一感への認識不足や誤解も

濱田 省庁のサイトはテキストが多いし、フラッシュ使用も、一般サイトに比べれば多くはない。しかも、ノン-

フラッシュバージョンも用意しているから、アクセシビリティ的には問題ないことが多いよね。

図1 経済産業省 経済財政政策公表資料
<http://www5.cao.go.jp/keizai/index2.html>



文字がすべてリンクになっている。音声ブラウザでリンクだけを読み上げるモードにしてもこれでは変わらない。見た目にもただ羅列されている印象がぬぐえない。

図2 内閣府 内閣府について
<http://www8.cao.go.jp/naikakufu/>



一番最初にある概要がパンフレットを利用して、画面に収まらないトップページから始まり、中身はすべてPDFという、音声ブラウザではかなりつらい作りだ。



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
 (株)ユーディット 主任研究員
 hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
 (株)ユーディット 研究員
 naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット

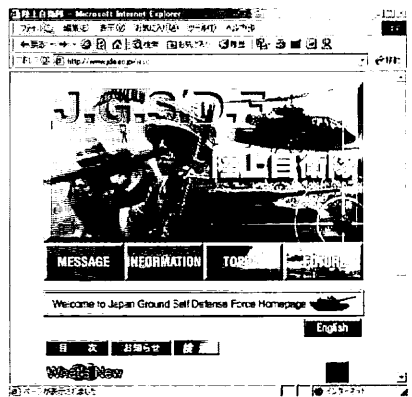
URL <http://www.udit-jp.com>

「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

図3-1 防衛庁
<http://www.jda.go.jp/>



図3-2 陸上自衛隊
<http://www.jda.go.jp/jgsdf/>



防衛庁・自衛隊というページなのに、全体の関係性がわかりにくく、別のサイトのようにデザインの違った「統・陸・海・空」が存在している。

石田 でも、子供向けのページにフラッシュを使っているところがありました。それにサイトデザインへの配慮が足りない気がします。たとえば、ヘッダエリアとフッタエリアのデザインを統一しておけば、本文は自由にしても違和感が少ないのに、ただ文章を「HTMLにしました」というところが多すぎます。ヘッダやフッタがあっても全体で徹底していないと、音声ブラウザでは読めても、普通に見て「何これ?」という印象を受けます。

濱田 たしかに万人が読める必要はある

けれど、デザインによっては読みたくなるものもある。ただでさえ、面白い内容というわけではないし(笑)。

石田 ほんの少し色やデザインを統一するだけで、全然違う印象を与えると思う。リンクをクリックして、突然パートとテキストが出てきたら、それはどこの部署が出しているか、どんな文章かわからないじゃないですか。

濱田 一部を統一して、同じサイト内にいるということがわかればいいんだ。一つのサイトにいろいろなデザインが混ざっていると、どこのサイトを見ているのか、わからなくなるというのがあるからね。背景の色とロゴだけは統一して、あとは多少いじってもいいですよというようにしないと。

石田 各部署でデザインやナビゲーションに、独自の工夫を施しているからでしょう。組織の区分けがあるにせよ、同じ省庁なら仲よくしてほしいです。

濱田 仲悪いのかな?(笑)。
 石田 つまらぬ詮索をしよう(笑)。この原因は部署ごとに違う業者に依頼しているからでしょう。防衛庁(図3-1,2)を例にとると、リンクを寄せ集めたトップページがあって、その下にそれぞれがお金をかけただろう、か

っこいいページがある。トップページで強引に一つのサイトとしてまとめているから、使う側からするとややこしい。

濱田 陸・海・空と、はっきり色分けされている。それぞれ独自のサイトを作っているつもりなのだろうか。

石田 連載でも指摘しようと思っていたのが、「白書」や「報道発表」、「ホームページ検索」(図4-1,2)とかの項目の見え方や表現が微妙に違う点。まず、それらの項目は統一

して表示する必要があるのか。しかも、項目自体は各省庁のページのメインコンテンツではないのに、一番目立っている場合が多いのも気になります。

濱田 分類しているタイトルから中身が想像できない。省庁サイトに限ったことではないが、利用者が想像するものと違うものが出てきたりするね。

石田 すべてのデザインを統一する必要はないけれど、同じパートがあるならば表現は同じほうがよいでしょう。その上で別のオリジナルコンテンツが把握できるようにすべきです。ところで、アクセシビリティ面での問題点はやっぱり画像の扱いですか。

図4-1 総務省
<http://www.soumu.go.jp>

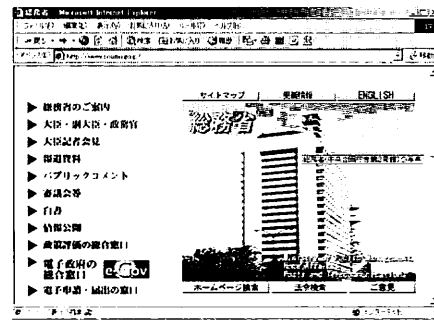
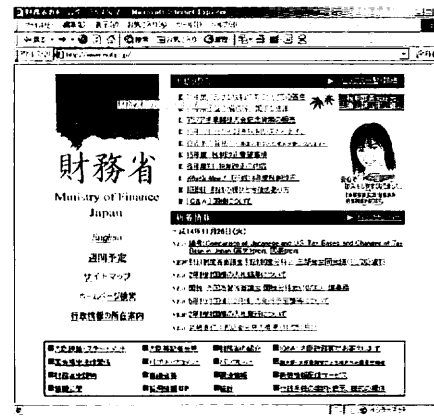


図4-2 財務省
<http://www.mof.go.jp/>



この中に共通項目が含まれている。各サイトの特徴を出すのはいいが、統一している情報は同じような位置に配置してみてもどうだろうか。

図5 首相官邸トップページより
http://www.kantei.go.jp

左記のテキスト画像それぞれにALTタグが入っているが、「写真で見る総理」「写真で見る総理バックナンバー」と続くので二重読みになっている。一応配慮をしたと思われるが、この後に出てくる長いものはうっとりする。ALT属性は、音声ブラウザの読み上げ方を理解して適切につける必要がある。

**ALT属性はなぜ使われるのか
サイト運営の責任者は？**

濱田 図表などを全部画像で提供しながら、ALT属性が何もついていないものが多い。重要さにもよると思うけれども、今からすべてに補足するのは相当大変だよ。

石田 ALT属性が入っていても、画像の説明が的を外れていたり、二重読み(画像のほかにテキストでも同じ内容のリンクが直後についているもの(図5)や、ひどいのは画像を説明していないものもあります。ガイドラインが理解されていないのでしょうか。

濱田 たぶん、ALT属性がどういう意味で使われているのか、あまり理解されていないようだ。画像を非表示にして意味が通じるか確かめてみたり、本当はWeb管理担当者が音声ブラウザで確認すべきだという気がするけれど、きちんとチェックしてほしいよね。一応国のサイトで国民一人ひとりに平等に提供する義務があるわけだから。

石田 省庁のサイトを見ていて感じたのは、全体的にどこことなくシロウトっぽい点です。

濱田 アカ抜けていない感じのところが多いよね。予算がないのかな。トップページだけはきれいだが、他のページは明らかに内部で作っているような……。

石田 トップページは外部企業に依頼して、更新部分は量が多いので自分たちでやる、という姿勢は心情的に理解できますが、その落差がありすぎます。最近は一

クセシビリティーやユーザビリティーの視点から見ても、優れたWebサイトがたくさんあるし、利用者の目が肥えているので、たぶん省庁サイトを見るとがっかりするかなと思います。濱田 Webサイト全体の質が向上してきているから、レベルの差がはつきり出てしまっているというのはある。

石田 「お金をかけろ」という意味ではないのです。内部制作が非常に多いと思うので、その担当者ももっとユーザビリティーとアクセシビリティーについて勉強してほしい。更新も、文章だけをうまく更新する方法がいっぱいあります。デザインとともに、更新するための技術をもっと利用すべきです。

**何のために、誰のために
Webサイトはあるのか**

濱田 省庁サイトの場合、文章がメインだからアクセシビリティーはそんなにひどくはない。けれども、今一步「何のために」、「誰のために」ということを考えて作らないといけな

石田 私も同感です。それがわからないから、ユーザビリ

ティー的にも、ただ情報が羅列されているだけで「うまく伝える」という工夫がありません。

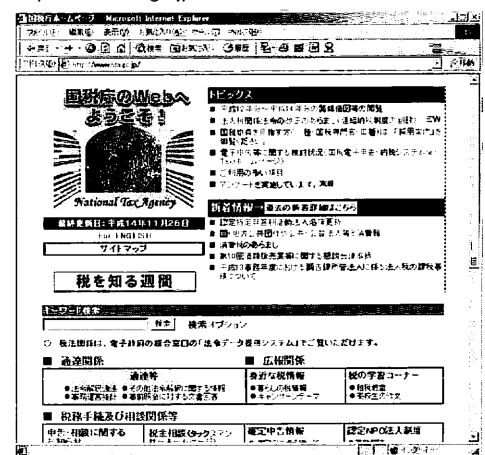
濱田 利用者は何を求めてWebサイトへ来るのか、考えなければいけない。

石田 発表されたから、資料だから掲載するという毎日の作業になっているのではないかと思います。サイトリニューアルするときには、まずその点を考え直したらどうでしょうか。「天下の省庁に向かって

図6-1 環境省
http://www.env.go.jp/



図6-2 国税庁
http://www.nta.go.jp/



完全ではないが、どちらのサイトも、トップページで全体がわかるように工夫されている。各ページのデザインも比較的統一されて、画像のALTテキストなども配慮されており、背景とのコントラストもよい。利用者の視点を考慮して作られている姿勢がサイト全体から伝わる点の評価した。

何言ってるんだ」って感じですけど(笑)。

濱田 でもやっぱり一般の人たちの見方というのが正しいと思うよ。

石田 最後にこれまでのベスト3は？

濱田 うーん、どうしよう。そんなに極端に差はつかない。

石田 そうですね。どこも一長一短ですが、利用者の視点を考慮している姿勢がサイトから伝わる「環境省」と「国税庁」を紹介しましょう(図6-1、2)。